課題解決型授業（アクティブ・ラーニング）に関する調査研究プロジェクト
平成27年度第２回推進地域連携協議会・調査研究報告会

１　目　　的

今後求められる新たな学び（アクティブ・ラーニング）の指導方法等を確立するため、推進地域及び推進地域内の実践推進校（中心校）、連携協力校における取組実践等の情報を共有するとともに、外部有識者や教育関係機関からの助言により、調査研究における成果や課題を協議し、全道の小・中学校の課題解決型授業の改善・充実に資する。

２　主　　催

北海道教育委員会

３　開催日時

平成２８年２月１０日（水）　13：00～16：10

４　会　　場

上川教育研修センター　２階講堂　（旭川市６条通４丁目）

５　概　　要

全道各地より１２０名以上の教職員が上川教育研修センターに集い開催。

（１）「アクティブ・ラーニング調査研究報告」発表：旭川市立朝日小学校　教諭　櫻井　啓子
旭川市立新町小学校　教諭　菅野　裕介

＜報告の概要＞

◇研究組織と経過

◇研究の成果　①学級づくり～アクティブ・ラーニングの授業は，学級経営や生徒指導と密接な関係がある

②授業づくり～主体的・協働的な学びの授業像
アクティブ化シートでアクティブ・ラーニングの授業のために大切な視点を提案
２つの実験授業で検証・改善

③環境整備～人・もの・旅費等のサポートも重要

※詳細は当日配布の「調査研究報告書」の冊子に記載。

（２）「アクティブ・ラーニングをどのように進めていくのか」
＜シンポジウムの柱＞
①これからの授業づくりのイメージ
②これからの教員に必要な資質能力や意識改革

コーディネーター　旭川市立朝日小学校　教頭　玉井　一行

シンポジスト　愛知教育大学　教授　野田　敦敬
北海道立教育研究所　部長　鈴木　淳
旭川市立朝日小学校　教諭　櫻井　啓子

野田教授
〇対話的な学びの過程を大切にしたい。
〇「社会に開かれた教育課程」が重要。
〇自分ごと・本気になる授業が大切。「子どもの生活のどこにつながるのかを考える」
〇必要感や必要性。
〇学級経営がちゃんとできている先生はアクティブ・ラーニングになっている。
〇教員を目指す学生達には多様な現場の現状を知ってほしい。
〇「対話」は，心のぶつかり合い，つながり合いである。

鈴木部長
〇キャリアステージに応じた研修が必要。
〇アクティブ・ラーニングにかかわる研修　要望が増えてきている。
〇「個－集団－個」の授業における関係性が重要。
〇課題は学習評価。動いている活動していることがねらいを具現化されているか？
〇授業を見つめる目が大切。

櫻井教諭
〇子ども主体で子供の思考の流れを大切にしたい。
〇高い学習意欲と友達と学ぶことによる質の高い学び。
〇課題を見つけるきっかけづくりが重要。

＜野田教授からの総括・助言＞
・「新たな学校文化とは何なのか？」～社会に役立つ学力を
・新たな知識観～苦労してつかみとった知識。
・子どもたちの学習自体が社会貢献や地域貢献につながっていく。
・授業のポイントは「友達の考えを聞くこと」～聞いて，考えて，つなげる
⇒聞く力を育てる
・音声言語から言語情報となるための教師の指導力は「板書」にある。

◎フロアーからも熱心な質問や感想をたくさんいただきました。アクティブ・ラーニングによって授業がどう変わるのか，教師は何を変えなければ行けないのか，様々な不安や必要感を持った教職員の皆さんに集まっていただきました。野田先生をはじめ鈴木部長やＡＬＰＳの研究報告から，ヒントや方向性を見つけていただけたのではと思います。